

令和7年度自己評価結果公表シート

玉川学園幼稚園

1. 本園の教育目標

I. 子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

II. よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

2. 今年度の重点目標

I 受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす

II 自然を題材にした表現の保育の充実を図る

III 週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する

3. 重点目標の取組状況

項 目	取組状況と評価
受け持ったクラスの子どもの成長に全力を尽くす	① 取組状況 本園では各学年ともにクラス担任制を採っておりそれぞれの担任教師は、クラスの園児に公平に目を向け、かつ平等に愛情を持って接しながら、きめ細やかに指導することとしている。クラスの園児は、それぞれに体躯、性格、発達の程度、家庭環境などが違うため、それぞれの園児に応じた配慮と対応が求められる。必要に応じてフリー教員の援助を受け、また指導教員や専門家と相談をしながら日々の保育に取り組んだ。子どもの成長は一朝一夕には為らず、一年を通して地道に取り組むこととしている。 ② 保護者アンケートの結果 年度末の無記名保護者アンケート（回収率87％）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（73％）」、「良かった（26％）」となり、②子どもの成長が「大変実感できる（66％）」、「実感できる（33％）」と回答いただいている。 ③教員の自己評価の結果 自己評価では、ほとんどの教員が担当したクラスの子どもの成長に満足感を得ており、その割合は昨年度よりも増加している。

自然を題材にした表現の保育の充実を図る	① 取組状況 本園では、長年にわたって「自然を題材にした表現の保育」を教育方針として実践している。四季折々の身近な自然や生き物に親しみ、自分が見たこと考えたことを表現することで、子ども一人一人の自己形成を促し、クラスの子ども同士の相互理解につなげて良い集団社会の形成を目指している。毎月の園内研究会では、各々のクラスの保育を見合うことで教員の保育力向上に努めた。また、他園の公開保育や各種の研修会に参加して資質向上に努めた。 ② 保護者アンケートの結果 本園の教育内容については「満足（72%）」、「概ね満足（24%）」と回答いただいております、教育内容に理解と満足を得ている。 ③ 教員の自己評価の結果 本園の教育方針の表現の保育は、子どもの主体的な発想を様々な方法で自由に表現することを目指している。それぞれの教師が創意工夫しながら、概ね満足できる成果が得られたとの自己評価になった。
週案等の保育計画を継続して作成し、有効に活用する	① 取組状況 各教師は、そのクラスの実態に応じて保育計画を立案し、PDCA サイクルを通してより良い子どもの成長とクラス作りに生かすことを目標としている。今年度も保育内容の充実のために幼稚園全体で取り組んだ。 ② 教員の自己評価の結果 概ね有効に活用できたとの自己評価である。PDCA サイクルでは、実践したことの評価と改善が重要になるので、指導教員による助言を参考にしながら保育の充実に努めることができた。

4. 学校関係者の評価

玉川学園幼稚園は教員の子どもたちへの指導が行き届いており安心できる。何よりも園の醸し出すあたたかな雰囲気が良い。課題としては、近隣の幼稚園に不審者が侵入した事件があったことを踏まえ、より一層のセキュリティ強化が望まれること。また、玉川学園幼稚園の預かり保育は充実しているものの、その需要の伸びに対して供給が十分ではないため、月ぎめ預かり保育枠に加えて一時預かり保育枠の拡大が望まれること、が挙げられた。
--

5. 財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。
--